

特集 1：クリティカル・オーディエンス

—メディア批判の社会心理学（3）

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
教授 李 津娥

2020 年度からスタートした本プロジェクトは、オーディエンスによるメディア批判について、「クリティカル・オーディエンス」という研究視座から実証的に検討することを目的とした。これまでに、『メディア・コミュニケーション』誌上で2度の特集を組み、9編の論文を発表し、3年間の研究成果をまとめた学術書が刊行される予定である。3度目となる今回の特集は、学術書に収録しなかった後続の研究論文2編と、ソーシャルメディアやインターネットにおけるオーディエンスについて新たな視点で検討を行った論文3編から構成されている。具体的には、1) 母国を離れて暮らすディアスポラのホスト社会メディアの利用と批判的態度を検討した論文、2) コロナウイルスに関連するマスメディア報道への意識を検討した論文、3) 批判と関連する YouTube 研究のレビュー論文、4) ドラマに対するインターネット上のコメントと批判的態度を検討した論文、5) マンガを原作としたドラマに対するツイッター上の反応を検討した論文、である。

李光鎬・李津娥論文は、ディアスポラの多元的なメディアの利用のあり方は、ディアスポラとしての生き方に大きな影響を与える要因であるが、ホスト社会メディアの利用に関してはあまり注目されてこなかったという認識から、中長期在留外国人の最大グループである在日中国人のメディア利用に関する調査の後続研究として、在日韓国人のホスト社会メディアの利用とその要因について検討している。

川端論文は、社会生活が通常に戻りつつあった2022年6月に実施したWeb調査の自由回答をもとに、新型コロナウイルスに関連するマスメディア報道に対する意見を分析し、メディアへの批判的な情報接触に関するメディアリテラシーの向上が、危機的状況における受け手の情報収集能力や対応能力を高め、マスメディア報道のあり方を導くことになるという点を指摘している。

山本論文は、ソーシャルメディアの一つである YouTube 動画とその利用に関する研究を概観したうえで、批判的評価の対象としての YouTube、批判の対象としての YouTube 動画、批判が YouTube に与える影響という観点から、批判に関連する YouTube の研究を検討し、今後の研究の方向性と課題を示している。

志岐論文は、インターネット上のドラマへのコメントの閲覧・書き込み、また、ドラマのコメントをインターネット上で他者と共有する心理にはどのような要因が影響しているのかについて、視聴者のデモグラフィック要因、ドラマ視聴行動、視聴媒体といった要因に注目し、分析を行っている。

正木論文は、インターネットの発達により注目されることの多いマンガの実写化に焦点を当て、Twitter に投稿された意見のテキスト分析を通じて、マンガ原作のドラマに対して視聴者がどのような言葉を用い、どのような感情や評価を表明しているのかについて、分析している。

本特集を通じて得られた知見から新たな共同研究プロジェクトや企画が始まっており、今後もメディア・オーディエンスの社会心理学的研究をより深めていきたい。